

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法律学科、現代社会法学科ともに、各学科の特性を踏まえて、「人材の養成・教育研究上の目的」を適切に設定している。				
(2) 各学科の「人材の養成・教育研究上の目的」はいずれも建学の精神に沿って設定している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「人材の養成・教育研究上の目的(法律学科)」(法学部履修要項抜粋)				
「人材の養成・教育研究上の目的(現代社会法学科)」(法学部履修要項抜粋)				
「人材の養成・教育研究上の目的(ウェブサイト)」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法律学科、現代社会法学科の人材の養成・教育研究上の目的を、「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に明示している。				
(2) 両学科の人材の養成・教育研究上の目的を、大学のウェブサイトと履修要項に掲載し、教職員及び学生に周知するとともに社会に公表している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「人材の養成・教育研究上の目的」(ウェブサイト)				
「人材の養成・教育研究上の目的(法律学科)」(法学部履修要項抜粋)				
「人材の養成・教育研究上の目的(現代社会法学科)」(法学部履修要項抜粋)				
愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準1」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。 A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(4)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会等の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (4) 法学部将来検討委員会が、「愛知学院大学内部質保証推進規程」の下、「法学部自己点検・自己評価委員会内規」に基づき、学部の自己点検・自己評価を計画的に実施している。今年度は、特に学位授与方針に示した学修成果の測定結果及び目標達成状況と、2020年度認証評価等に基づく本学の諸活動における取り組み事項への対応状況について重点的に検討した。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
法学部自己点検・自己評価委員会内規				
2022年度第1回～第3回法学部自己点検・自己評価委員会議事録				

2. 長所・特色

点検・評価項目番号		長所・特色
なし		
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。		
根拠資料名		

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準2」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1)法律学科、現代社会法学科ともに、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、学士(法学)の学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を設定し、大学のウェブサイトと履修要項で公表している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「ディプロマ・ポリシー」(ウェブサイト)				
「ディプロマ・ポリシー(法律学科)」(法学部履修要項抜粋)				
「ディプロマ・ポリシー(現代社会法学科)」(法学部履修要項抜粋)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法律学科、現代社会法学科ともに教育課程の編成・実施方針を設定・公表し、その中で、各学科の特性に合わせた教育課程の基本的な体系と内容および教育課程を構成する授業科目の区分を示している。両学科の方針は、大学のウェブサイトと履修要項で公表している。				
(2) 各学科の教育課程の編成・実施方針に基づき編成された教育課程及びそれを構成する授業科目と、学位授与方針に示された修得すべき知識、能力、資質とは、各科目の特性に応じて様々なレベルで適切に連関しており、その連関性をカリキュラムマップの作成によって明示している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「カリキュラム・ポリシー」(ウェブサイト)				
「カリキュラム・ポリシー(法律学科)」(法学部履修要項抜粋)				
「カリキュラム・ポリシー(現代社会法学科)」(法学部履修要項抜粋)				
「カリキュラムマップ」(ウェブサイト・法学部履修要項抜粋)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(6)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法律学科、現代社会法学科の各教育課程は、教育課程の編成・実施方針に基づいて編成・実施しており、整合性がとれている。				
(2) 各学科の教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切であり、教育課程を構成する科目区分間、授業科目間の関係性や履修順序(配当年次)につきカリキュラムツリーを作成することにより、その適切性を明示している。				
(3) 各教員が、教育課程の編成・実施方針を踏まえて授業目標、内容、方法を定め、カリキュラムマップ及びシラバスで示し、さらに、毎年度実施するシラバスチェックにおいて同方針を踏まえたものが確認されており、個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえている。				
(4) 両学科とも、初年次に法学に関する入門科目を配置し、1年次の基礎演習において、高大接続を意識した授業を行っている。また、幅広い教養と法的素養をバランスよく身につけられるよう、教養科目36単位と専門教育科目76単位を卒業要件単位とすることにより、教養教育と専門教育を適切に配置している。				
(6) 両学科とも、キャリア教育科目の運用を通じて、学生のキャリア支援のための教育を適切に実施している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「カリキュラム概要(法律学科)」(法学部履修要項抜粋)				
「カリキュラム概要(現代社会法学科)」(法学部履修要項抜粋)				
「カリキュラムツリー(法律学科)」(法学部履修要項抜粋)				
「カリキュラムツリー(現代社会法学科)」(法学部履修要項抜粋)				
「カリキュラムマップ」(法学部履修要項抜粋)				
「シラバス」(ウェブサイト)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置（授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等）を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）は適切ですか。また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体（会議名・誰が）」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 各教員が、シラバスにおいて、担当授業科目の各回の予習・復習事項を明示し、授業時間外に必要な学習を促進している。また、法律学科、現代社会法学科とも年間履修登録単位数の上限を44単位に設定し、単位の実質化を図っている。				
(2) 両学科とも、毎年度、シラバスの相互チェックを制度的に実施し、その内容の適切性を担保している。また、授業内容とシラバスの整合性は、毎学期、この点を設問の1つとして掲げた授業アンケートの実施を通じて確保されている。				
(3) 両学科とも、学生の主体的参加を基本とする演習科目を1年次からすべての学年に設置している。また、今年度もなお新型コロナウイルス感染症が流行する中、講義科目においても、TeamsやWebCampus等のICTを活かし、ビデオ会議システムによるオンライン授業やWeb上での課題提示システムなどを利用して、質問や発言をする機会を確保した。				
(4) 両学科とも、講義科目のうち、多くの履修が予想される科目は、あらかじめ複数の講義に分割し、学生数の適正化を図っている。一方、演習科目については、あらかじめ受講人数を指定し、ゼミ委員会で受講者の振り分けを行い、受講人数を適正に保っている。また、ウェブ上での履修相談・オリエンテーション等での履修指導、成績不振者への個別面談・履修指導、オフィスアワーの設定・公表を通じて、学生からの学習相談にも対応している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「シラバス」（ウェブサイト）				
「共通シラバス科目の確認と第三者チェックのお願い」（2022年度第12回法学部教授会資料）				
2022年度第12回法学部教授会議事録				
2022年度春学期 法学部「学生による授業アンケート」集計表				
2022年度秋学期 法学部「学生による授業アンケート」集計表				
「カリキュラム概要（法律学科）」（法学部履修要項抜粋）				
「カリキュラム概要（現代社会法学科）」（法学部履修要項抜粋）				
2022年度第8回・第13回法学部教授会議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(5)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	
		(6)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するために どのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(7)	適切に学位授与を行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など 第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)成績評価方法は、シラバスで明示されており、これに基づいて単位認定を行っている。また、既修得単位の認定は、「編入 学者の単位認定に関する内規」等、該当の規程に従って、適切に認定を行っている。				
(2)「単位認定及び成績評価に関するガイドライン」に従って厳格に成績評価を行っている。				
(3)卒業要件は学則に明示し、大学のウェブサイトと履修要項で公開している。				
(5)（点検・評価対象外のため記述なし）				
(6)学位授与に当たっては、教務課が作成した原案を法学部教授会で学則に基づき審議し、教務委員会の審議を経て、代表 教授会の承認を得て授与されており、厳格性や客観性が担保されている。				
(7)「愛知学院大学学位記授与に関する規程」に基づき、適切に学位授与を行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「シラバス」(ウェブサイト)				
編入学者の単位認定に関する内規				
単位認定及び成績評価に関するガイドライン				
愛知学院大学学則				
2022年度第6回・第14回法学部教授会議事録				
愛知学院大学学位記授与に関する規程				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法学部自己点検・自己評価委員会において、学部のアセスメント・プランに従って、「ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、達成目標及び達成状況」を学科ごとに作成し、その中で、分野の特性や各成果の性質に応じて多角的観点から具体的な指標を設定している。				
(2) 法学部は、アセスメント・プランのうち、学位授与方針を満たす人材になったかの検証方法として、GPAや公務員試験等の結果及び就職先の分野別分布状況等のほか、卒業時アンケートの集計結果も加えており、学習成果に対し適切な測定方法を用いている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学アセスメント・プラン(法学部法律学科／現代社会法学科)				
ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、達成目標及び達成状況(2021年度卒業生)法学部法律学科				
ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、達成目標及び達成状況(2021年度卒業生)法学部現代社会法学科				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	B
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法学部自己点検・自己評価委員会が、2022年6月に、各学科の「ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、達成目標及び達成状況」を用いて点検・評価しており、適切な資料・情報に基づく点検・評価を行っている。				
(2) (1)の評価結果における対応策のうち、講義科目におけるコミュニケーション手法の活用に関しては、2022年11月の法学部FD研究会にて、オンデマンド講義の効果検証の一環として、Teamsのチャット利用を通じた教員－学生間の質疑応答をめぐるメリット／デメリットにつき意見交換がなされた。なお前年度から法学部将来検討委員会にて検討を続けてきた現代社会法学科のポテンシャルを学内外に示す企画に関しては、次年度(10月予定)に本学で初めて開催されることとなったホームカミングデーに統合して実施することが、同年12月・2023年1月の法学部教授会により決定された。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
2022年度第1回法学部自己点検・自己評価委員会議事録				
ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、達成目標及び達成状況(2021年度卒業生)法学部法律学科				
ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、達成目標及び達成状況(2021年度卒業生)法学部現代社会法学科				
令和4年度全学FD活動報告書				
2022年度第2回法学部自己点検・自己評価委員会(将来検討委員会)議事録				
2022年度第11回・第12回法学部教授会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準4」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法律学科、現代社会法学科ともに、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、大学のウェブサイトと入学試験要項で公表している。				
(2) 各学科の学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の観点から求める学生像を明示し、入学希望者に求める水準等の判定方法を踏まえて設定されている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「アドミッション・ポリシー」(ウェブサイト)				
「令和4年度入学試験要項」(ウェブサイト)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(3)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(4)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(5)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法律学科、現代社会法学科の学生の受け入れ方針に基づき、学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。				
(3) 愛知学院大学入学試験委員会規程に基づき、代表教授会の下に入学試験委員会を置き、同委員会において入学者選抜を実施する体制を適切に整備している。入学者選抜の原案は、入試センターの協力の下、学部入試委員が責任をもって作成している。				
(4) 入学試験要項で明示された判定基準に基づき、公正な入学者選抜を実施している。				
(5) 障がいなどを理由として受験時に特別な配慮が必要な受験生については、事前に相談の機会を設け、適切な対応を行っている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「令和4年度入学試験要項」(ウェブサイト)				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

法学部

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 ＜学士課程＞ ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 ＜修士課程、博士課程、専門職学位課程＞ ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 入学定員を変更する際には、法学部教授会において慎重に検討し、入学定員及び収容定員を適切に設定している(今年度は、次年度に向けて変更なし)。また、在籍学生数については、経年の定員充足率を考慮し、適切に管理している。2022年度は、入学定員に対する入学者数比率が107%で、収容定員充足率は105.3%と適正な範囲にある。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「収容定員、入学定員、入学者数、学生数」(ウェブサイト)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法学部教授会が、2022年12月に、学生の受け入れの適切性につき、学科ごとの新入生の春学期GPA・単位修得状況の経年比較を基に点検・評価しており、適切な資料・情報に基づく点検・評価を行っている。				
(2) 上記の評価結果として、両学科とも注意・警告対象者の割合が増加傾向にある点につき、(1)の教授会において意見交換を行い、次年度以降の入試体制の運用上留意していくこととなった。				
【根拠資料名】上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
2022年度第11回法学部教授会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準5」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(2)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (2)法学部は、「愛知学院大学 求める教員像及び教員組織の編制に関する方針」に基づき、「法学部・求める教員像及び教員組織の編制に関する方針」を定め、適切に明示している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
法学部・求める教員像及び教員組織の編制に関する方針				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師又は助教）の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置（国際性、男女比等も含む） ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法学部の専任教員数は、大学設置基準に基づく必要専任教員数22名を上回る24名となっており、適切である。				
(2) 設置基準上必要な専任教員数を安定的に満たすため、法学部将来検討委員会で協議された人事の方向性の下に、今年度は1名の昇任につき、法学部教授会が、2022年11月に昇任人事を行っており、計画的に募集・採用・昇任等を実施している。				
(3) 法学部は、「法学部・求める教員像及び教員組織の編制に関する方針」に基づき、適切に教員組織を編制するよう努めており、おおむね方針に基づいた組織編制となっているが、国際性、男女比の点で改善すべき点がある。				
(4) 教養教育に関しては、法学部と連携しつつ、教養部が責任をもって運営する体制となっている。				

基準6. 教員・教員組織

組織名

法学部

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

「教員組織・教員数」(ウェブサイト)

2022年度第2回法学部自己点検・自己評価委員会(将来検討委員会)議事録

2022年度第9回・第10回法学部教授会議事録

法学部・求める教員像及び教員組織の編制に関する方針

「カリキュラム概要(法律学科)」(法学部履修要項抜粋)

「カリキュラム概要(現代社会法学科)」(法学部履修要項抜粋)

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 法学部は、「愛知学院大学教員資格選考基準」を踏まえて、募集、採用、昇任等に関する基準及び手続につき、「法学部の教員採用人事に関する規程」及び「法学部の教員昇任人事に関する規程」を整備している。

(2) 2022年11月に行われた昇任人事は、上記の各規程に定める基準及び手続によって行われており、規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施している。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

「愛知学院大学教員資格選考基準」

「法学部の教員採用人事に関する規程」

「法学部の教員昇任人事に関する規程」

2022年度第9回・第10回法学部教授会議事録

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	B
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法学部は、2022年11月に「多人数オンデマンド授業の形式と効果」をテーマとしてFD研究会を開催し、同年12月には「情報法の講義のあり方」をテーマに研究授業を行っており、毎年度、定期的に学部全体としてFD活動を実施している。				
(2) 研究授業及びFD研究会の成果を基にして、各教員が授業改善を行っている。また、法学部教授会において、2022年4月・7月に、前年度の教育活動に関して優れた取り組みのあった専任教員1名を選出し、全学の教育優秀賞候補者に推薦した(同年9月、教育優秀賞選考委員会の審査の結果、受賞者に決定)。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
令和4年度全学FD活動報告書				
2022年度第2回・第5回法学部教授会議事録				
2022年度愛知学院大学教育優秀賞候補者推薦書				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	B
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法学部将来検討委員会は、2022年7月に、次年度の予定専任教員数について大学設置基準上必要な教員数を満たしているかを点検した。				
(2) 上記の点検結果として、次年度も設置基準上の必要教員数を満たす予定であることが確認された。一方、これをふまえて今年度は新規の採用人事を行わない方向性が示されたため、教員組織編制上改善すべき点たる男女比・国際性とも、改善に向けた取り組みの機会を得ることができなかった。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
2022年度第2回法学部自己点検・自己評価委員会(将来検討委員会)議事録				
[法学部回答票]2023年4月1日時点 専任教員数				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準6」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2022年度(評価対象期間:2022年4月～2023年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 法学部は、愛知県弁護士会、名古屋地方裁判所、名古屋地方検察庁から講師派遣を受ける「法実務概論Ⅰ(司法実務)」、愛知県および名古屋市と連携した「法実務概論Ⅱ(地域行政実務)」、愛知学院大学税法会計人会と連携した「産官民提携講座Ⅰ(税理士による租税講座)」、なごや環境大学との連携協定に基づく「環境と法」を開講しており、今年度はさらに、なごや環境大学・中部大学との三大学連携協定に基づくSDGs普及啓発教育プログラム「産官民提携講座Ⅱ(SDGs概論)」も立ち上げることで、学外組織との適切な連携体制の構築の取り組みを一層進めている。 (2) 法学部は、全学の「社会連携・社会貢献に関する方針」に基づき、2022年6月～2023年3月の間、日進市との連携事業(令和4年度提案型大学連携協働事業)として、学部生と名古屋造形大学生との協力により、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する新成人向けリーフレットを作成することを通じて、社会連携・社会貢献に関する活動による法学の教育研究活動を推進している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「法実務概論Ⅰ(司法実務)」(シラバス)				
「法実務概論Ⅱ(地域行政実務)」(シラバス)				
「産官民提携講座Ⅰ(税理士による租税講座)」(シラバス)				
「環境と法」(シラバス)				
「産官民提携講座Ⅱ(SDGs概論)」(シラバス)				
「愛知学院大学の各方針」(ウェブサイト)				
(日進市長宛)令和4年度提案型大学連携協働事業成果報告書				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 学外組織との連携による各授業とも、学生による予習シート・復習シートにおける授業フィードバックに基づき、授業内容の適切性や学習成果について点検している。				
(2) 学外組織との連携による各授業とも、学生による予習シート・復習シートにおける授業フィードバックに基づき、外部連携講座委員会において次年度の講師派遣依頼等を決定している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
各講義予習シート・復習シート				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準9」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A